

07 エサの付け方

練りエサは水に溶けるため、ハリ付けひとつでエサの持ちが変わります。

どんなに持ちのいいエサを作ってもエサがハリに付いていなければ意味がありません。

初めてへら鮎釣りをされる方の多くが、エサのない状態でウキにアタリが出るのを待ってしまうことが多々あるようです。ここではエサのハリ付けを覚えましょう。



ハリは常にエサの中心に

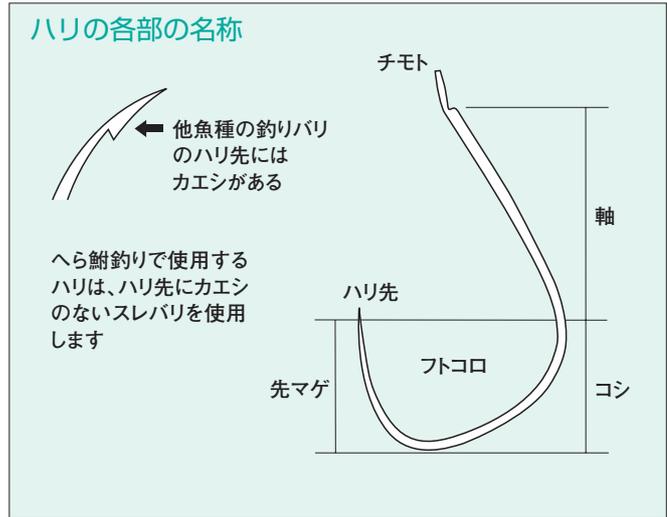
エサをハリに付けるときは、ハリは常にエサの中心にくることが大切です。



ハリ付けがしっかりしていればエサ持ちもよくなります



ハリがエサの中心にないと、持ちのよいエサでもすぐに落ちてしまいます



2つの付け方

エサをハリに付けるには、上から押し込む方法と、下から引き抜くように通す方法の2通りがあります。

上から押し込む方法

ハリを上から押し込むとハリはフトコロにエサが食い込まないため、比較的早くエサが抜け落ちます。釣り始めで魚を寄せたい場合は、この付け方が適しているでしょう。



①丸めたエサの中心にハリを押し込みます



②ハリのチモトを押し込んでしっかり押し込みましょう



③チモトの部分を加圧します(チモトを押さえる)



④形を整えできあがり。エサはハリより大きく丸めておくと付けやすいでしょう

下から引き抜く方法

一方、ハリを下から引き抜くようにすると、エサはハリはフトコロにしっかり抱え込まれて芯残りするようになります。また、グルテンやトロロなどの繊維の入っているエサは、この付け方をします。



①丸めたエサにハリを刺します



②ハリのチモトがエサの中心にくるようにハリスを引っ張ります。あとはチモトを押さえ、形を整えできあがりです

グルテンエサの付け方



①グルテンエサはグルテン繊維をハリのフトコロに残すために、下から引き抜く方法で付けた方がよいでしょう



②ハリを刺したら、ハリスを軽く引っ張りながらハリの底の部分を押し込みます



③チモトを押さえ、形を整えできあがり



④グルテンは水中で膨らむので、バラケやダンゴのように大きなエサ付けはしません。ハリが隠れる程度の大きさにしましょう

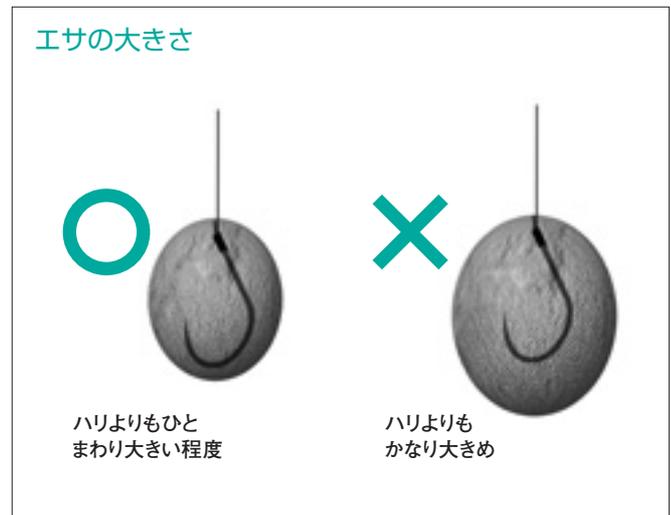


付け方で効果が変わる!

『角型』のエサ付けはエサを角張らせて付けるため、水の抵抗を受けやすく魚を寄せるバラケに適した付け方です。ていねいに丸く付けた『丸型』は、くわせエサ重視タイプ。水の抵抗が少なくゆっくりバラケるので、ハリのフトコロにエサの芯が残り、最もエサ持ちのよい付け方です。

『涙型』は、バラけて芯残りする万能タイプの付け方です。この形にエサ付けするには、エサをあまり丸めずに形を整えハリ付けし、ハリのチモトの部分を加圧します。これが「チモトを押さえる」ということです。エサの下部の丸い部分が先にバラケ、チモトからフトコロにかけてエサの芯が残ります。この付け方が最も多くの釣り人に好まれています。

また、エサの付け方には、表面をあまり整えず丸める圧力を弱くした、バラケ方の速い「ラフ付け」という付け方もあります。



●**角型**

バラケエサに適した付け方

寄せる効果はバツグン!



角があるので水の抵抗を受けてバラケやすい

チモトは最低限の指圧で押さえる

●**丸型**

くわせに適した付け方

周りからゆっくりバラけて芯が残ります



球体は水の抵抗を受けにくい形状

チモト部分もしっかり丸める

●**涙型**

万能的な付け方

バラケても芯残りエサ付けもしやすい



エサの下の部分は形を整える程度でOK

チモトはしっかり押さえる